

9. 木材の多角的利用及び販売

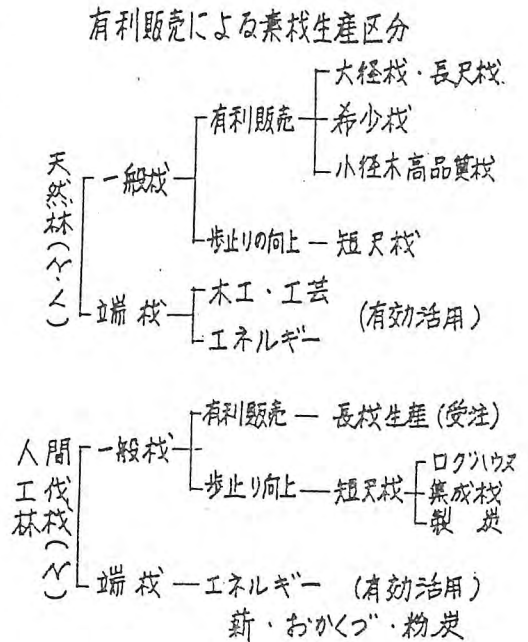
○中野 雅幸
平澤 光次
菊地 禎広
内野 佳行
高橋 義浩
野呂 徳美

1. はじめに

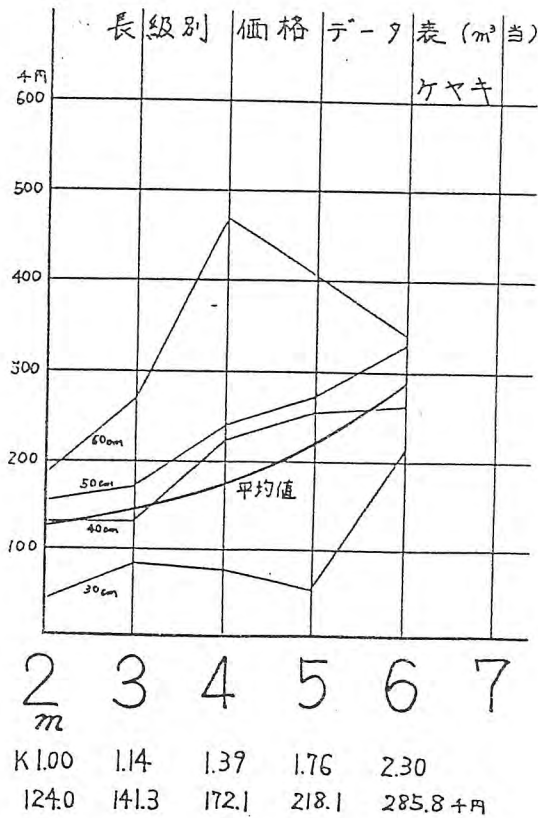
近年森林資源の減少が言われている中で私達は、木材の利用販売方法を多角的にとらえてみよう、この発表を行うものである。

2. (図-1)は素材生産の考え方をチャート式にまとめてみたもので、有利販売、歩止りの向上、有効活用を天然林、人工林、間伐材別に分け、有利採材、有効活用を以下これより考えてみる。

(図-1)



(図-2)



(図-2)は盛岡木材流通センターの入札結果から我々が集約したデータで、その中から例としてあげたものがケヤキ、ミズナラ、クリである。(ミズナラ、クリの図は添付省略)。この表は長さ別、太さ別に落札結果をグラフにし、樹種によっても違う有利な採材方法の目安にしている。

(図-3)は平成元年12月から平成2年12月までの当久慈営林署の有利販売の例で、盛岡木材流通センターへ委託販売した実績である。このように490m³で85,567千円、予定価格の306%、m³当たり175.2千円となっている。

大径材は自然発生的であるから意識的に生産される長材の増産がキーポイントになる。

(図-3)
平成元年十二月～平成二年十二月
有利販売実績
委託販売量 490m³
総売上額 85,567千円
(306%)
m³当り単価 175.2千円
ケヤキ・セン・ミズナラ・カツラ
アカマツ・ヒメコマツ・クリ
(全17樹種)
端材生産量 44m³
総売上額 1,091千円
計 86,658千円

(写真-1)は、散発的に生産される樹種を随時集積し一括売払いした例で、オノオレカンバ50m³を公売した結果310万円 で落札し、予定価格の347%、m³ 当り62千円という好結果を得ている。

次に端材等の当署での活用例と民間での活用例からその需要動向を見てみる。

(写真-2)は当久慈営林署で作成展示している木工品の数々である。

(写真-3)は、危うく排水暗渠にされそうになった花イタヤ空洞木で、料亭の床柱に利用された。(15万円で売払い)又、クリ伐根からは丸テーブルを採取した。(写真省略)

(写真4)はミズメから作製したソバ等のコネリ鉢である(1万円で売払い)。

(写真5)はイタヤの割り材で作って見た昔懐かしい“かつぎ棒”である。

(写真6)は当地方でも貴重になったオノオレカンバで作製したアワビとり用の棒である。(約1万円)

(写真-7)はウスとキネ、縁起物ミニチュアである。

以上岩泉町安家に特徴的な樹種で造林班が製作してみた。

次に小径木高品質材、端材等の需要動向を民間での作品を見ながら追ってみる。

(写真-8)はエンジュ、山グワ、イタヤ等で作られた床柱である。

(写真-9)はケヤキ、クワ、エンジュなど小径木を輪切り利用した碁器であり、芯の割れ止め工法が特徴である。この外ケヤキの朱肉入れとイタヤ小径木灰皿等も製作している。

(写真-10)はケヤキ、セン、トチノキ、等で作られるミニテーブルとコネリ鉢である。

珍しい作例として次のようなものがある。

(写真-11) はケヤキ材の優勝カップで木製品の宣伝効果大である。

(写真-12) はセンノキ端材で製作された「バサラの神」の面である。

もともとは台所の火の守り神のカマド面をヒントに作られたものでインテリア等にも使われている。

(写真-13) は面と碁盤、青森ひばの優秀性を示すための作品である。

大畑産ひばを宅急便で取り寄せることが出来、上々の評価を得た。

(写真-14) は碁盤材としては最適のカヤ材と並べてみたもので、向かって右がひばである。

以上のような作品を作るための材料は近年とみに手に入りにくくなったと言われている。

端材等の供給は、年々衰退している日本の木の文化継承発展のためにも必要である。

3. 次は人工林間伐材等の需要例をあげてみたものである。

(図-4) は岩手県大野村、山形村々内で作られている土壌改良剤と家畜用の飼料に混入する材料として使用されている粉炭の使用例で、この内、1千トン以上が輸入粉炭で、その理由は国内供給が少ないということで注目される。粉炭と木酢液を使用するとエサへの

土壌改良・家畜用添加剤粉炭生産例 (図-4)

	岩手県大野村 北部産業	同山形村 谷地林業	計	摘 要
土 壌 改 良 用	740 ^ト	126 ^ト	866 ^ト	有機農法の拡大
家 畜 用 (鳥・牛・ブタ)	880 ^ト	14 ^ト	894 ^ト	薬品の替りエサに混入肉付き 早く病気に強い。卵の黄良く くされがたい
計	1,620 ^ト	140 ^ト	1,760 ^ト	岩手産炭生産量 8,828 ^ト
国内外別	国内産 30% 国外 70 (主にアメリカ)	国内産 100%		

病気予防薬混入がいらなくなり、卵、肉の質を良くし糞公害の予防にもなる。無農薬、有機農法が望まれる中、北海道、東京方面への需要は伸びている。これからの国内産粉炭の生産が期待される場所である。

又、木酢液から抽出して造られたドリンク剤は特に二日酔に効果があると地元では重宝がられている。

(写真-15) は山形村、谷地林業でコスト軽減のため製作した移動式製炭窯であるが、同会社では将来カラマツ等の間伐材利用を計画している。

(写真-16) 次は、カラマツ間伐材のログハウス用材としての可能性を試してみたものである。

一般に作られるログハウスは丸太材の長さ、太さの均一性が望まれます。カラマツ若令木は更にワレ、ネジレ、が問題です。この欠点を克服するため在来工法とログ工法を組み合わせ、建築してみました。

柱材、桁材等は伐採時点で特別注文した。壁材は短尺材利用とネジレ防止を目的に柱に組み込んだ。これに割れ止め剤を吹き付け効果を試している。

この外最近の間伐材利用として集成材への利用が当地方でもはじめられている。

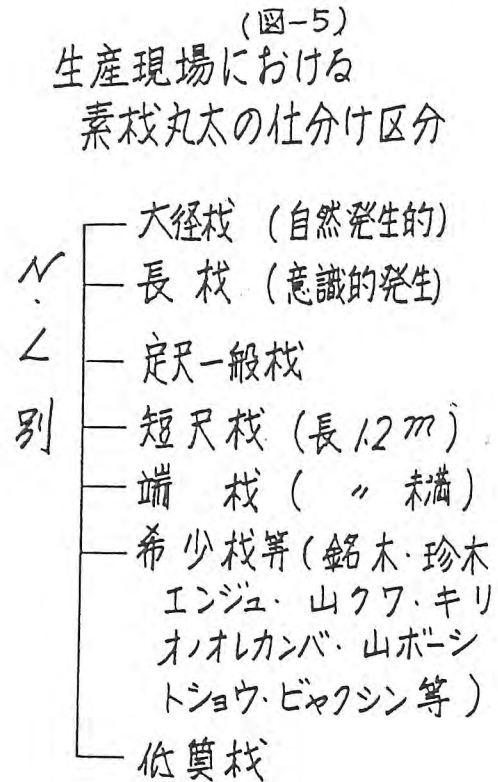
4. (写真-17)は当署造林班によるコスト的に有利なマイタケ菌のナラ小丸太への着菌実験である。菌は新日鉄釜石の茸部からとり寄せた。

昨年のもものが一個だけマイタケの発生を見たが、まだ1~2年観察が必要である。

5. さてこれらの木材利用は今後需要の拡大が見込まれる訳であるが、実際に木材を生産するにあたり次の問題がある。

当署管内は急峻な岩石地を基盤とした地形が多く、生産土場の広さを十分に確保できないのが実態である。

(図-5)は生産現場での素材の仕訳け区分作業を示したものである。少なくとも4種、多い時は6種以上になり巻立土場が狭い時は安全性にも影響する。すなわち土場の広さに有利採材の生産量が比例する。当署の場合この点不利である。この問題を解決するには個別仕訳け巻立や運搬集積の可能なクレーン付トラックの導入が必要不可欠となる。



(図-6)

端材その他の販売予想

種類	数量	金額(千円)	平成2年度実績外
端材等	80 ^{m³}	1,991	43.84 ^{m³} 1,091 ^{千円}
總付丸太	200 ^{m³}	86	430 ^{m³} 本
薪 材	100 ^{m³}	385	3.85 ^{千円} /m ³
転 石	50 ^ト	250	5 ^{千円} /ト
緑化木	100 ^本	200	2 ^{千円} /本
カラマツ等 間伐材	150 ^{m³}	945	6.3 ^{千円} /m ³
計		3,857	

(図-6)に示すとおり将来的に間伐材、緑化木等需要の高まりは予想され副産物の生産にも役立つものと考えている。

端材売却実績

樹種、天アカマ、ケヤキ、センナラ、トチ
イタヤ、ミズメ、ヤマボウシ等

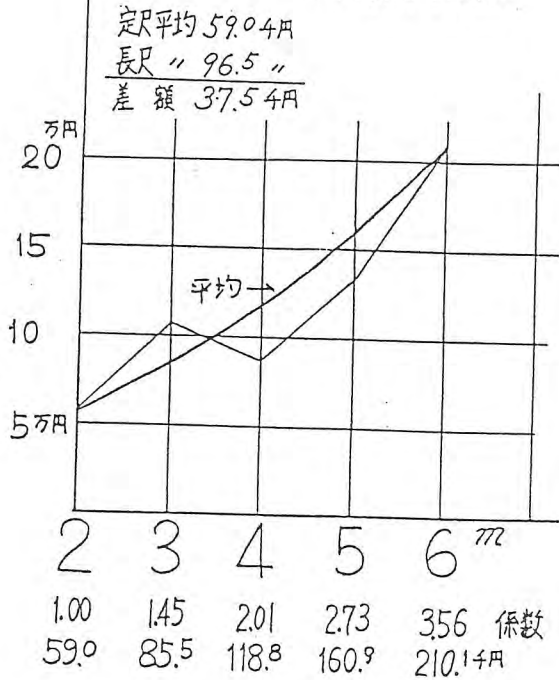
売却件数 10件 1,091,000円

売却先 久慈市 岩泉町、大野村
山形村の素材業者、木工関係者

(図-7)

(広)長級別価格・係数データ表 (m³当)

ケヤキ除く 12種



(図-7)は前段にご紹介したデータをもとにして作られた採材の長さ別、価格の変化を示したもので定尺材と長材の平均格差37.5千円を算出したものである。

当署の生産量から長材生産量を3%の増と見込んで算出すれば約220^{m³}となり価格差を乗じると8,250千円の増収となる。

このようにみると、時代のニーズに合った生産体制は必要に応じたソフトとハードを持つことにより更に効率良くなる。

今後種々条件整備を待ちながら、地域や自治体との連携をとり研究実践を続けたいと思う。

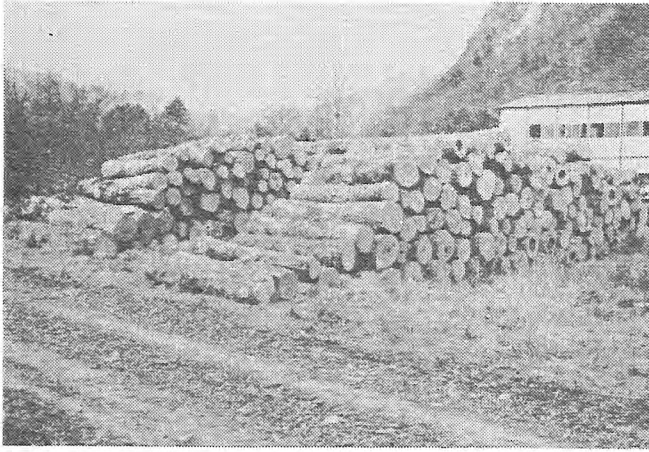


写真 - 1



写真 - 2

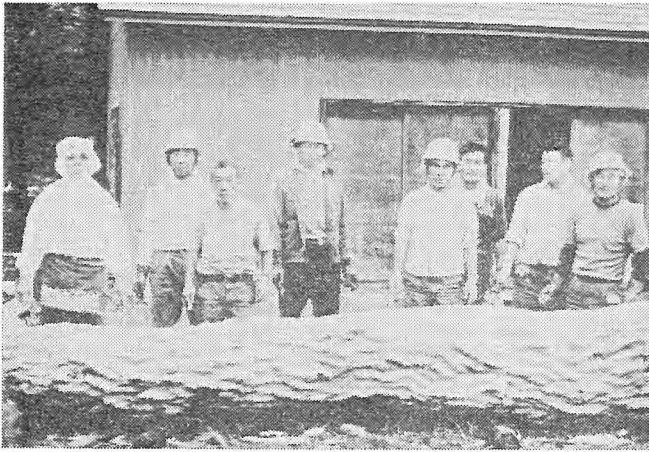


写真 - 3



写真 - 4

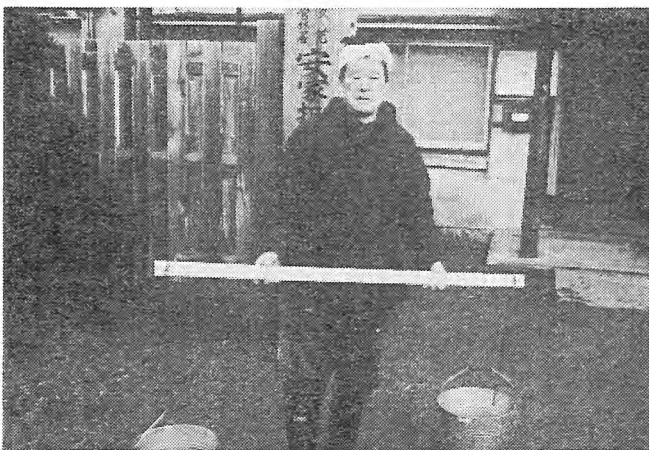


写真 - 5

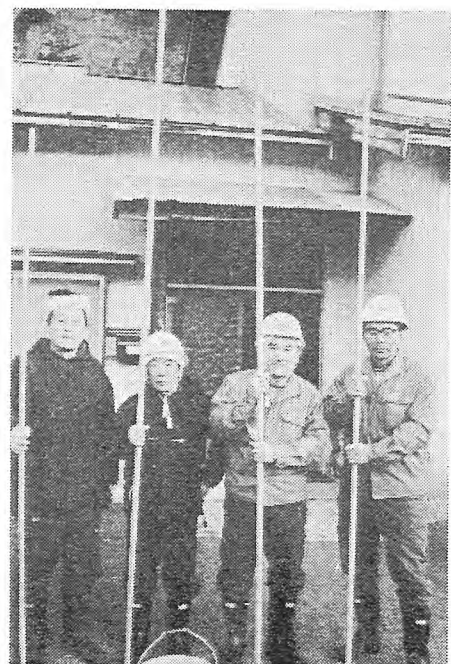


写真 - 6

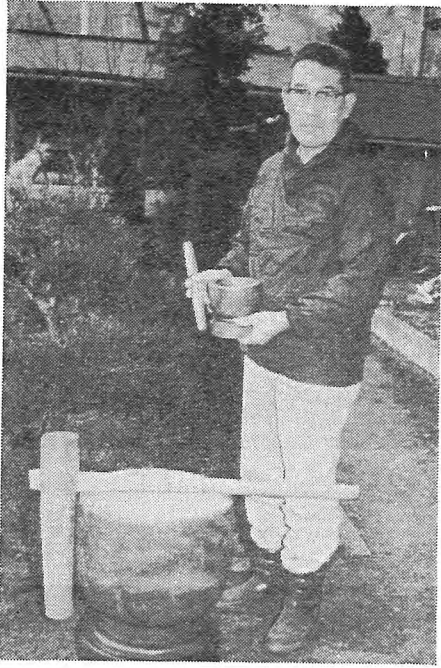


写真 - 7

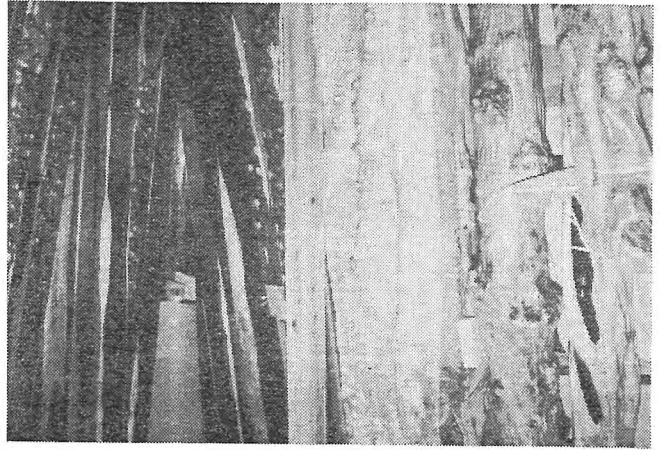


写真 - 8

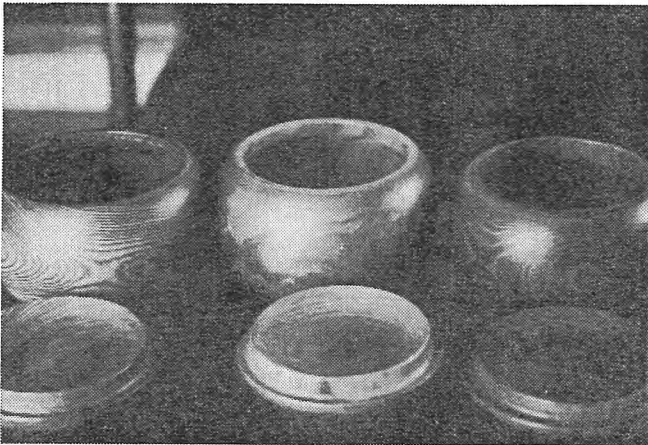


写真 - 9

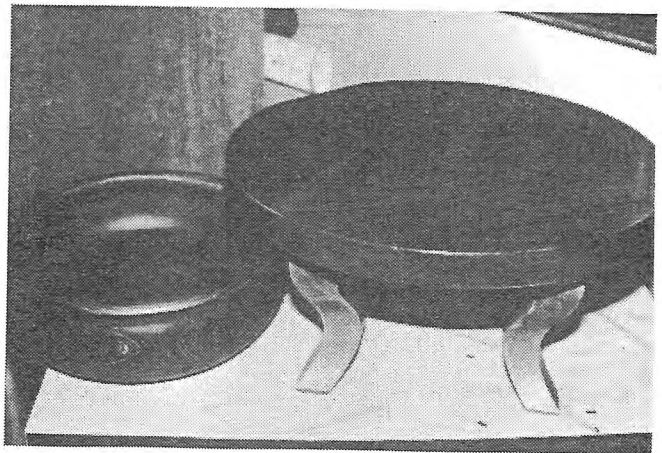


写真 - 10



写真 - 11

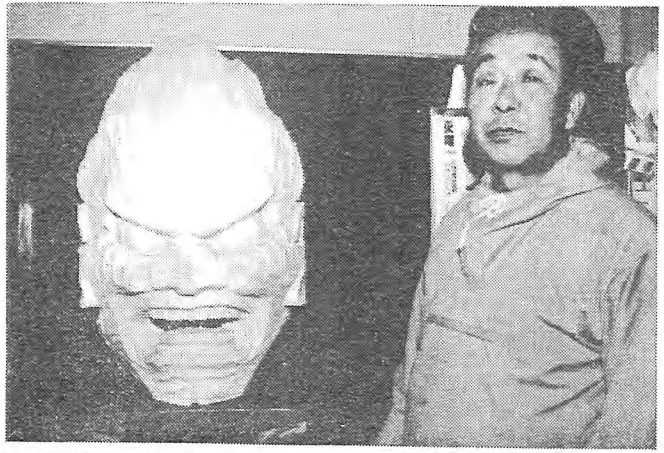


写真 - 12

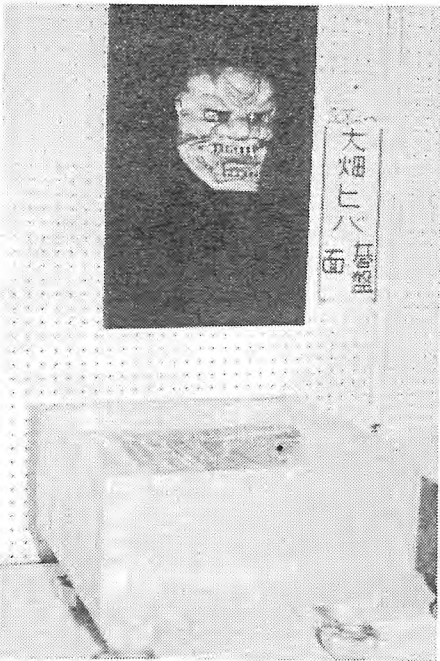


写真 - 13

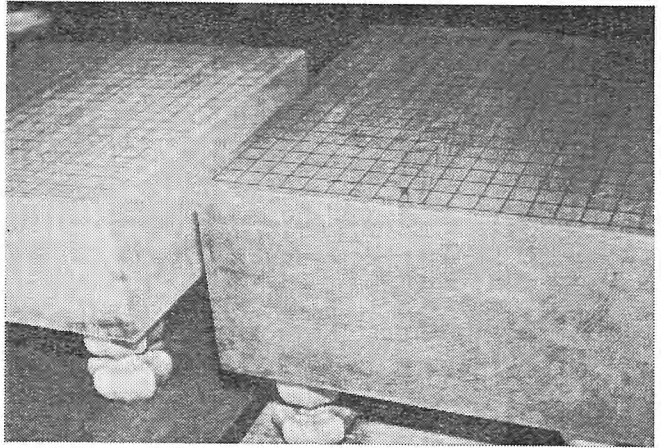


写真 - 14

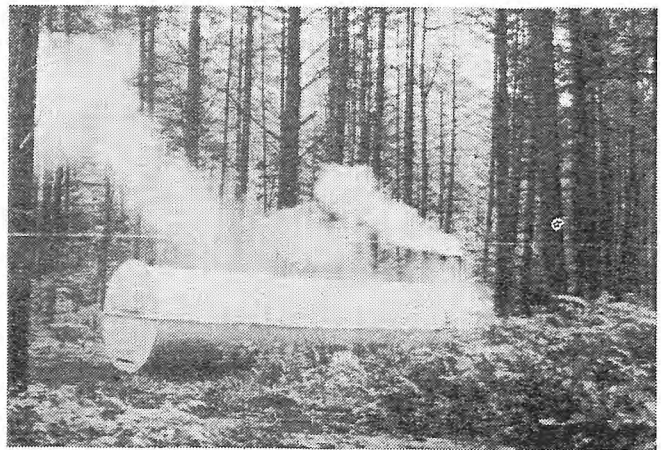


写真 - 15

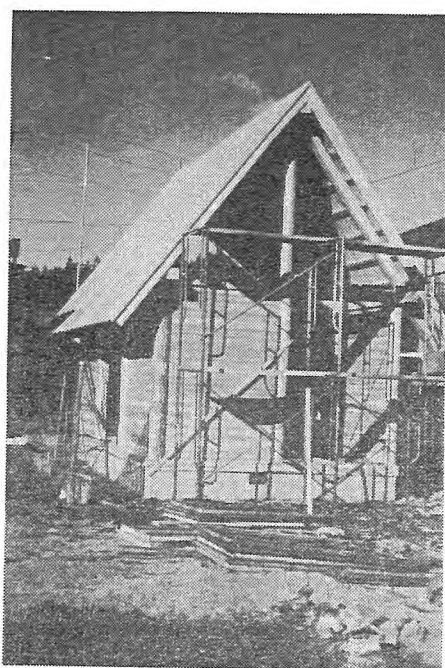


写真 - 16

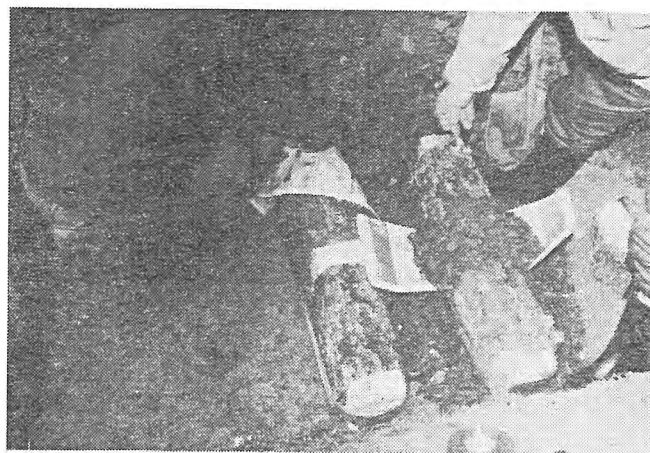


写真 - 17